

蝶の北上はどこまで続くのか

ここ数年南の蝶の襲来はすぎまじい？このままゆくと山の蝶は、高山蝶は、の心配する声もあるが、それは又別問題で平地のものとは一緒に考えられずひとまず話題外として、関東に押し寄せる南の蝶にスポットを当ててみよう。

現在の関東ではツマグロヒョウモンは完全に定着（越冬している）ムラサキツバメは恐らく横浜あたりまで越冬可能で耐寒性を着々と身につけているようである。ナガサキアゲハも茅ヶ崎あたりまで越冬地を伸ばしているようであり、両種とも夏季には群馬、茨城県などでも姿を見られるようになってきた。

これらの蝶の進入には、自然飛来、人為的放蝶、飼育中の脱走、植物その他に付着等も考えられるが、大きな流れとして地球温暖化をものはや認知せざるを得ないであろう。

どのような形にしる、一旦たどり着いた蝶が食草さえあればそこで5~10月頃まで世代を繰り返せるというのが現状である。私が20年くらい前のルーミスジミの報文で房総半島南部はほぼ岡山県の平均気温に合致するとしていたが、現在の東京はその当時の房総半島南部と同じであり、すなわち岡山県と同様状態にあるというわけである。しかし飽くまで年間の平均気温であるので、真夏がものすごく高温であれば冬の温度がかなり低くても平均気温は同じといえるわけで、関東でまだ越冬できない種があるという究極の問題はそこにあると思われる。真冬の温度が全体的に1~2度あがってくれば多くの南方の蝶が越冬可能となってしまうのではないだろうか。

昨年から今年にかけ静岡県では、タテハモドキ、アオタテハモドキ、ミカドアゲハ、イシガケチョウが記録され、オジロシジミも発生したという、カバマダラなど毎年発生するそうである。

今年になって神奈川県でウスキシロチョウが目撃され（静岡県では数度にわたり複数）東京でも私がウスイロコノマチョウの弱令幼虫を見つけてしまった。

それらの蝶もさることながら、滋賀県まで延びてきたクロセセリ、愛知県まで来ているヤクシマルリシジミなどがこの次に顔を出しそうな筆頭であろう。

しかし、北上してくる南方系の蝶はもっともっと種類が増えてもよさそうなものであるが、やってくるのはやはり広範囲に活動しあまり環境を選ばない蝶たちである、出なければもともとかなり我々の近くにいるウラナミジャノメやルーミスジミが生活圏を飛び出してきてもよさそうなものであるが、人間には計り知れない環境的、地質的に保守的なものや制限されるものが多分にあるようである。

ゲームではないが、この次には何がやってくるのか、何が見られるのか、各々が推測するのも面白いのではなからうか？

* 住所、メルアド他変更

添 徹太郎 〒400-0861 山梨県甲府市城東 1-8-19 ツインダイヤモンドハイツ
205 Tel: 055-233-8996

宮崎 重徳 4A,12 Thai Van Lung St,Ben Nghe Ward Dist,1,HCMC,Vietnam
Tel: 0084-8-822-0843 携帯 : 0084-90-3010310

三輪 眞言 東京へ戻りました、名簿の留守宅の住所をご利用ください。

田根 徹 toru.tane.spk@white.plala.or.jp

* お知らせ

9月例会は会場の都合により、第4火曜日です(9/27) お間違いなきよう…

* 新刊

虫をめぐるデジタルな冒険	小檜山賢二	岩波書店	¥2000	03-5210-4000
ゲッチョ先生の面白博物学	盛口満	ボーダーインク	¥1600	098-835-2777
沖縄昆虫図鑑	福田晴夫他	南方新社	¥3500	099-228-8793
ふくしまのいきものたち	著者多数	福島民友新聞社	¥1429	024-523-1191
素数ゼミの謎	吉村仁	文藝春秋	¥1500	03-3265-1211

* 新聞紙上より

多摩湖(村山貯水池)と狭山湖(山口貯水池)を抱える狭山丘陵の南部に広がる。約14・5haの敷地には、散策路がコナラやクヌギの雑木林を縫うように整備され、バードウォッチングの格好の場になっている。

癒やしの空間
ホッ
2020.7.20
東大和市立狭山緑地
(東大和市)
ワカタいないかな」と倒木の下を探る昆虫箱を手にした子供たちに出会う。

グや草花の観察、昆虫採集と、ヤマユリの大きな白い花を目にできる。デジタルカメラを手に、散策を楽しむ人たちと行き交い、「ク

この時期、鳥の声を聞きながら散策路を歩いている

ふもとにあり、狭山丘陵の自然などに関する資料がそろっている市立郷土博物館の学芸員坂本卓也さん(36)は、「デジタルで撮った花の名前や、採ったキノコが食べられるかよく聞かれます」と笑っていた。

問い合わせは、市環境課
(042)563・2111。

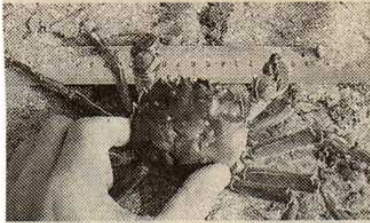
子供たち 虫取りに夢中



散策路わきの倒木で昆虫を探す児童たち

上海ガニ 輸入許可制に

東京・お台場海浜公園で発見された上海ガニ(東京都島しょ農林水産総合センター提供)



環境省は5日、特定外来生物被害防止法(外来生物法)の規制対象に、中華料理の高級食材の上海ガニ(チュウゴクモクスガニ)やアメリカミンクワシガエルなど42種類の生物を追加選定した。一般の輸入が増えている外国産クワガタムシについては、生態系への影響などについてはデータが不足しているうえ、規制すると飼育中のものが野外へ大量遺棄される恐れもあるとして、選定が見送られた。ミドリガメやアメリカザリガニも今後の検討課題となった。同省はこのほか、トマトの授粉に使われるセイヨウオオマルハナバチを、年内にも規制対象に選ぶ方針。

外来生物法では、オオクチバシなど37種類が第1次の規制対象に指定され、今年6月から輸入や飼育が原則禁止される設備が必要となる。

環境省は5日、特定外来生物被害防止法(外来生物法)の規制対象に、中華料理の高級食材の上海ガニ(チュウゴクモクスガニ)やアメリカミンクワシガエルなど42種類の生物を追加選定した。一般の輸入が増えている外国産クワガタムシについては、生態系への影響などについてはデータが不足しているうえ、規制すると飼育中のものが野外へ大量遺棄される恐れもあるとして、選定が見送られた。ミドリガメやアメリカザリガニも今後の検討課題となった。同省はこのほか、トマトの授粉に使われるセイヨウオオマルハナバチを、年内にも規制対象に選ぶ方針。

外来生物規制 42種追加選定

クワガタは見送り

輸入が増えている外国産クワガタムシについては、生態系への影響などについてはデータが不足しているうえ、規制すると飼育中のものが野外へ大量遺棄される恐れもあるとして、選定が見送られた。ミドリガメやアメリカザリガニも今後の検討課題となった。同省はこのほか、トマトの授粉に使われるセイヨウオオマルハナバチを、年内にも規制対象に選ぶ方針。

05.8.6 読売

規制対象に選定された42種類の外来生物

【哺乳類】ハリネズミ属、アメリカミンク、シカ亜科、キタリス、タイリクモモンガ、マスカラット

【両生類】コキーコヤスガエル、キューバズツキガエル、ウシガエル、シロアゴガエル

【魚類】ノーサンパイク、マスキーパーイク、カタヤシ、ケツキョ、コウライケツキョ、ストライプトバス、ホホワイトバス、パイクパーチ、ヨーロッパアンパーチ

【昆虫類】テナガコガネ属、アシナガキアリ、コカミアリ、ツヤオオズアリ

【無脊椎動物】モクスガニ属(上海ガニなど)、アスタクス属、ウチダザリガニ、ラスティークレイフィッシュ、ケラクス属、ヤマヒタチオビ、カワヒバリガイ属、カワホトトギスガイ、クワガタガイ、ニューギニアヤリガタリクウスズムシ

【植物】アゾラ・クリスタータ、オオフサモ、アレチウリ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、ナルトサワギク、オオカワヂシャ、ポタンウキクサ、スパルティナ・アングリカ

【ガイド】日本アンリ・フェアル会が監修する検定で、2003年に始まった。昆虫と自然に関する知識、観察力などを総合的に問う。「かぶとむしマスター」「くわがたマスター」など10あるマスタークラスに合格すると、同じ昆虫の「ゴールドマスター」を次年度に受検できる。両クラスの実績合格者数は約5300人。



昆虫で 親子の会話活発

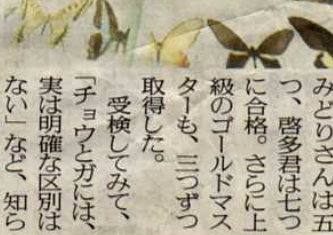
ファーブル検定

資格の王様

コンピューター関連企業に勤める須藤みどりさん(38)は、昆虫に関する知識を問う、この検定を昨年から一回連続で受けている。もともと「昆虫図鑑を見るのも嫌い」だったが、虫が好きな長男の啓多君(9)と一緒に、カブトムシなどの世話をしてきた。また、この検定は自宅に答案を書いて送付する形式と

いうこともあり、「自分でもできるかな」と思い、親子で受検したという。昆虫の種類別に「マスター」のうちの「みどりさん」は五つ、啓多君は七つに合格。さらに上級のゴールドマスターも、三つずつ取得した。

「チョウとガには、実は明確な区別はない」など、知らないことが多いのに驚かされた。昆虫のおかげで、親子のコミュニケーションも円滑だ。親子で全種目制覇を目指すことも、「一男の萌斗君(6)」にも「いずれは受けさせたい」と考えている。



外国産甲虫 野外で確認

「次は、ほくのギラファノコギリクワガタと、3本角のアトラスオオカブトの対戦だ！」

外国産のクワガタムシやカブトムシがコンピュータ画面上で対戦するゲーム「甲虫王者ムシキング」がいま、子供たちの間で大人気だ。各地のゲームセンターで週末ごとに開かれる大会は、腕自慢の小学生たちが詰めかけ、熱気を帯びる。

ゲーム人気の相乗効果も

あり、クワガタムシやカブトムシなど外国産甲虫の輸入量は年間200万匹を超えた。ホームセンターや郊外の大型スーパーなどで普通に売られ、子供にねだられた親が買い求めていく。東京都内の昆虫専門店では常時50種以上を販売しており、輸入元は東南アジアや南米、アフリカなど世界各地に及ぶという。

外国産甲虫が手軽に買えるようになったのは1999年。農林水産省が「国内の農産物の大型甲虫が、限られた住みかたを、国内の在来種から奪ってしまう恐れがあるためだ。」

別の問題もある。人気が高い東南アジア産のオオヒラタクワガタは、産産のヒラタクワガタと交尾して、大きなアゴを持つ雑種が生まれることを、国立環境研究所の五箇公一・総合研究官らが実験で確かめた。実際、静岡県などでは雑種が野外で採取されている。五箇さんは「長い進化の歴史の中ではぐくまれた地域の固有性が、一瞬にして失われてしまう恐れがある」と心配する。

産物に被害を与える心配がない」として、植物防疫法の規制を緩和し、輸入を解禁したことがきっかけだった。いまでは496種のクワガタムシと53種のカブトムシの輸入が認められている。

これに伴って、深刻な問題が生じている。外国産甲虫が野外で見つかる例が増えているのだ。九州大学の荒谷邦雄助教授は「このままでは国内の甲虫類の生存が脅かされかねない」と警告する。野生化

さらに、国内で流通しているクワガタムシの中には、東南アジアなどの原産国で捕獲や輸出が禁止されているものもある。日本へ輸出するた

6.めに見栄えの良い希少な産産の生態系までもがゆがめられている。

荒谷さんは「外国産甲虫の販売者は絶対に野外に放さないよう呼びかけるとともに、飼育する人には、こうした昆虫を買うことが原産国の生態系にどんな影響を与えているかを真剣に考えてもらいたい」と話している。

(杉森純)



たくさんの種類が店頭に並ぶ外国産のクワガタムシ
(東京・中野区の「むし社」で、撮影・菅野靖)